

1

乗車

通帳

急ぐ

鉄橋

止血

発注

2

カツパ

ウ

エ

イ

ア

エ

イ

ア

あ

わ

あ

な

か

つ

こ

う

悪

ジ

ョ

ー

ジ

3

原因

季節によつ

イ

二次

一次

ウ

イ

エ

細菌とウイ

わ

け

です。

細

ウ

生

きた

細

胞

2

1

2

配点	
1	各2点×6=12点
2・3	各4点×22=88点
〈計〉100点	

- 1 「乗」のよこぼうの数をまちがえないようにしよう。よこぼうの長さのちがいに気をつけよう。
- 2 「通」の右側は「角」のようにせず、真ん中のたてぼうを下までつきぬける。しんにょうの形も正しく書こう。
- 3 上の部分はカタカナの「ク」のような形である。真ん中の部分は「ヨ」であり、真ん中のよこぼうはつきぬけない。
- 4 「鉄」の右側は「失」であり「矢」ではない。また、「橋」の右側の形が正しく書けているかよく見ておこう。
- 5 「皿」は「皿」としっかり区別しておくこと。かんたんな漢字なので確実に正解してほしい。
- 6 「発」の「はつがしら」の形・筆順を正しく書こう。「発注」は「注文を出すこと」という意味である。「発註」も可。

2

- 1 シャワーハット(シャンプーハット)とは頭にかぶる円盤状のもので、洗髪時に目にシャンプーがはいらないようにするものである。それをかぶった自分を見て思った「たとえ」が①にはいる。知らなかったとしても次の行に「カッパがトドに聞いた」とあり、トドは「トドのようなどうさん」と四行目にあるので、自分をカッパにたとえたことがわかる。
- 2 本文の終わりから四行目のセリフを見ると、とうさんの回答によって、ともだちをたすけてあげることといったんあきらめたことがわかる。ということは、「たすけるかどうかなやんでいた」のである。
- 3 つなげて読んで自然に意味がつかなくなるという感覚があればよいのだが、「もしも」の位置を変えてみるのも一つの方法である。この場合は「ともだちがいじめられている所を『もしも』見たら」というように「見たら」の前まで下げて自然に読めるので、「見たら」にかかることがわかる。
- 4 直後のとうさんのセリフが「でも相手にもよるな」であり、それに対してけんたろうが「おとなのくせに、なさけないヤツ」という評価をくだしていることから、その前のセリフで「なさけないこと」をいったん言っていたとわかる。
- 5 直前に「おとなのくせに、なさけないヤツ」とあるので、「がっかりしている」イメージの「失望」がぴったりだろう。
- 6 アとエがそれぞれけんたろうの質問になっており、それに対するとうさんの答えがイとウというように分けられる。エに対する答えはイであり、アに対する答えはウである。アの「どうしてかあさんと結婚したの?」という質問についての話題がⅣのあとに続いているので、ア↓ウの流れがあとのⅢ・Ⅳにくることがわかる。
- 7 空らんの直後に「滝になって」とあり、本文終わりから三行目に「あわあわの滝が」とある。この二つのことばを結びつければよい。
- 8 線⑤の直前でとうさんに対して「おとなのくせに、なさけないヤツ」という評価をくだしている。
- 9 いくじなしだから、いまだにシャワーハットをつかわないとかみをあらえないのである。「なきたくなる」という表現もまさに「いくじなし」である。
- 10 本文終わりから三行目の「顔をく見えた」という文に注目。この文が何を意味しているのかしっかり読み取ってほしい。たすけるかどうかまよっていたともだちがジョージであり、とうさんと話していったんたすけるのをあきらめようと思っていたが、ジョージのすがたが思い浮かび、最後の一行の思いにつながっていくのである。
- 11 「なくなかない」と、打ち消しが三回なので、結局「しょうがない」を打ち消しているのである。しかも「気がするけれど……」という部分にもイの「ではないか」というところがびったりあてはまる。エほど強い思いにはまだいたっていない。

3

- 1 本文九行目に「ウイルス以外でも、かぜの原因となるのが」と書かれているので、まずウイルスがかぜの原因になるという話が先にあったことがわかる。
- 2 直後の文に理由が示されている。感染するウイルスがちがえば症状にもちがいが出るだろう。
- 3 直後の「夏」との対比に注目する。冬は乾燥するという一般常識も知っておいてほしいが、読み方・解き方としては夏の説明で「暑さ」と「湿気の多い」とが出てきていることから考える問題である。
- 4 「一つは〜二次感染といいます。もう一つは〜一次感染といいます」とはつきりと並列で書かれている。「本文中に出てくる順で」という指定を守ること。
- 5 (A)にはここから話が変わるので「ところで」がはいる。(B)には直後に具体例が示されていることから「たとえば」がはいる。(C)には直前の内容から当然いえることが直後で書かれているので「だから」がはいる。
- 6 一つ目が「大きさ」、二つ目が細菌とウイルスの「からだのつくり」、三つ目が「抗生物質が効くかどうか」である。
- 7 どちらが大きいかという説明が正しく読めればかんたんである。
- 8 ウイルスは「生きた細胞の中でしかふえることはできません」とあった。この部分との対比に注目する。
- 9 アは「インフルエンザ菌」を「ウイルス」としているのがまちがいである。イは本文終わりから八行目からの段落で説明されていることと合っている。ウは「かぜをひいたらまずは抗生物質を飲んでおくべきである」というところが本文には書かれていない。